

50単組の総団結で JR西日本グループに相応しい賃金を勝ち取ろう！

JR西日本連合 第32回委員会開催

JR西日本連合は、2月13日（木）に、TKPガーデンシティ大阪リバーサイドにおいて、「第32回委員会」を開催し、委員、幹事会、来賓、傍聴など約150名が集結した。委員会議長に禅野委員（JR西労組大阪地本執行委員）を推挙し、上村議長（JR西労組中央執行委員長）は、「安全を確保し、賃金を勝ち取る」との決意を述べた。

また、委員終了後には、JR連合グループ労組連絡会主催「2025春季生活闘争総決起集会」が同会場で行われ、JR産業の魅力を高めるべく、2025春闘を、JR連合に結集する各単組が連帯を深めて闘うことが確認された。

JR西労組は、JR西日本連合の中核単組として、JR西日本連合の仲間とともに、2025春闘を闘う。



挨拶するJR西日本連合上村議長（JR西労組中央執行委員長）

JR西労組を代表して発言する川端委員（JR西労組副執行委員長）

「2025春季生活闘争」女性参画について挨拶を行った。特に2025春闘については、JR西日本グループの収益は、JR西日本連合組合員の努力の賜物であり、JR西日本グループに相応しい賃金と

核単組としての決意表明を含めた発言を行い、運動方針

への肉付けを行った。議事は、満場一致で確認され、最後に上村議長の団結ファンパレードで締めくくった。

また、委員会終了後には、JR連合グループ労組連絡会主催「2025春季生活闘争総決起集会」が同会場で行われ、JR産業の魅力を高めるべく、2025春闘を、JR連合に結集する各単組が連帯を深めて闘うことが確認された。

JR西労組は、JR西日本連合の中核単組として、JR西日本連合の仲間とともに、2025春闘を闘う。

中央本部青年女性委員会 「第7回交流レクリエーション」

各地の仲間が集い、交流を深める

中央本部青年女性委員会は、1月26日（日）に、大阪市内において、「第7回交流レクリエーション」を開催した。

市内において、「第7回交流レクリエーション」を開催した。

各地本総支部から約80名の青年女性組合員が集った。

開会式で、李澤青年女性委員長は、労働組合の必要性、2025春闘について挨拶し、「全員で楽しんで交流を深め、青年女性委員会の仲間の輪を広げていきたい」と述べた。

交流レクは、会場ではトラップやサイコロなどを活用したオリジナルゲームを実行委員会が作成し、プース分けを行い、各班に分かれた参加者が各プースにおいてゲームを行い、各班にて得点を競った。各班とも、仲間と共に知恵を出し合いながら、

10代20代の今を大切に、JR西労組に集う仲間と、交流の輪を広げる活動を展開する。



各地本総支部から約80名の青年女性組合員が集った。

開会式で、李澤青年女性委員長は、労働組合の必要性、2025春闘について挨拶し、「全員で楽しんで交流を深め、青年女性委員会の仲間の輪を広げていきたい」と述べた。

交流レクは、会場ではトラップやサイコロなどを活用したオリジナルゲームを実行委員会が作成し、プース分けを行い、各班に分かれた参加者が各プースにおいてゲームを行い、各班にて得点を競った。各班とも、仲間と共に知恵を出し合いながら、

10代20代の今を大切に、JR西労組に集う仲間と、交流の輪を広げる活動を展開する。

ロマンは実を結ぶ

和歌山地方本部 青年女性委員会

No.356

和歌山地本青年女性委員会は各分会から選出された常任委員14名で構成されています。

主な取り組みとして、新入社員が配属となる5月に新入組員歓迎の「春レク」、9月には組合員の親睦を図る「KOMESODOレク」を開催し、仲間づくりを入り口に、活動を展開しています。

常任委員会は、毎月1回、土曜日に行っている「春レク、白浜でのウォークラリー

「2025春季生活闘争」女性参画について挨拶を行った。特に2025春闘については、JR西日本グループの収益は、JR西日本連合組合員の努力の賜物であり、JR西日本グループに相応しい賃金と

核単組としての決意表明を含めた発言を行い、運動方針

への肉付けを行った。議事は、満場一致で確認され、最後に上村議長の団結ファンパレードで締めくくった。

市内において、「第7回交流レクリエーション」を開催した。

各地本総支部から約80名の青年女性組合員が集った。

開会式で、李澤青年女性委員長は、労働組合の必要性、2025春闘について挨拶し、「全員で楽しんで交流を深め、青年女性委員会の仲間の輪を広げていきたい」と述べた。

交流レクは、会場ではトラップやサイコロなどを活用したオリジナルゲームを実行委員会が作成し、プース分けを行い、各班に分かれた参加者が各プースにおいてゲームを行い、各班にて得点を競った。各班とも、仲間と共に知恵を出し合いながら、

10代20代の今を大切に、JR西労組に集う仲間と、交流の輪を広げる活動を展開する。

「明くる、楽しく、元気よく」をモットーに



「2025春季生活闘争」女性参画について挨拶を行った。特に2025春闘については、JR西日本グループの収益は、JR西日本連合組合員の努力の賜物であり、JR西日本グループに相応しい賃金と

核単組としての決意表明を含めた発言を行い、運動方針

への肉付けを行った。議事は、満場一致で確認され、最後に上村議長の団結ファンパレードで締めくくった。

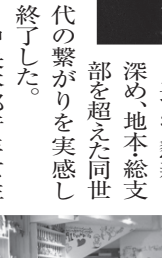
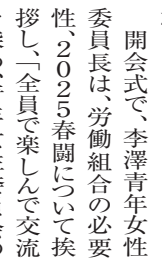
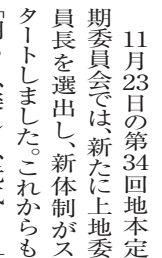
市内において、「第7回交流レクリエーション」を開催した。

各地本総支部から約80名の青年女性組合員が集った。

開会式で、李澤青年女性委員長は、労働組合の必要性、2025春闘について挨拶し、「全員で楽しんで交流を深め、青年女性委員会の仲間の輪を広げていきたい」と述べた。

交流レクは、会場ではトラップやサイコロなどを活用したオリジナルゲームを実行委員会が作成し、プース分けを行い、各班に分かれた参加者が各プースにおいてゲームを行い、各班にて得点を競った。各班とも、仲間と共に知恵を出し合いながら、

10代20代の今を大切に、JR西労組に集う仲間と、交流の輪を広げる活動を展開する。



岡山地本は、2月11日（火）、中央本部及び岡山支部と共に、現場の空気を感し一人ひとりが真剣に考え、事故の教訓を胸に刻んだ。

最後に参加者全員で合掌し、亡くなられた方の冥福をお祈りすると共に、安全への決意を新たにしました。

この2件の触車死亡労災事故は、列車の接近を認識している状態で触車系が接触した状態で見張員が接近承認合図を実施し、見張員が接近承認合図を停止配員が停止表示標を白

に、岡山地本管内で発生した過去の身近な事故を風化させない取り組みとして、2017年2月11日に発生した、山陽線系崎駅構内触車死亡労災及び2023年12月5日に発生した、山陽線里庄々笠岡駅間触車死亡労災の事故現場を訪れた。

現地では、なぜこのような痛ましい事故が発生したのかというところを、運輸安全委員会の鉄道事故調査報告書を



態であったことで発生している。

現在は、列車見張員等の立哨位置を明確にするとともに、線形が複雑な場所は、具体的に列車見張員等に配置位置を指示するなどの対策が取られているだけでなく、施設系統においては、単独で配置する列車見張員等が安全な位置に立哨できているか、ウレラブルカメラ等で作業責任者が視覚的に確認するなどの対策が立てられている。

（岡山地本発）